

書塾の仲間たち

第 234 回

ぼうせん 房仙会（静岡県三島市）



生徒の中には、スリランカ出身の方もいます。書道を習うため予定していた日本への留学が、コロナの影響で延期になりました。稽古を重ね、その後来日して対面した時も、初めて会った気がしないくらい、海を越えた強いつながりを感じました。

また、遠方に出かけることがなくなり、かえって1回に10～20名を指導できるようになり、月に数回、稽古に出られるようになつた生徒が増えました。ほかにも、カメラを使い、穂先を間近に見せることができるため、対面の頃より生徒の上達が早くなつたのは大きな収穫です。コロナ禍が収束してもオンラインレッスンを続けようと思っています。

房仙会

福田 房仙

静岡県三島市で書道教室を主宰している福田房仙です。以前は、山形・東京・京都・大阪・鳥取にいる生徒のために毎月足を運び、各地の稽古場で指導していましたが、コロナ禍で対面での指導を控えることとなつたため、代わってインターネット通信ソフトウェア（Zoom）で指導できないかと考えました。接続方法や画面の映り方などを試した上で、一昨年からオンラインレッスンに挑戦しましたが、初めから順調だったわけではありませんでした。画面を切り替えておらず「見えません」と言われ、ミュート（消音）のまま話して「聞こえません」と言われるなど、慣れている生徒に助けてもらいながら、試行錯誤を重ねてなんとか続けてきました。稽古では、主人に助手を頼み、手本を書いていたる姿を筆法がよくわかる角度から撮つてもらい、映像を生徒に見てもらえるように指導を進めています。

●書塾からひとこと●

ぼくは二年生になった時、家の近くでこうひつ教室をはじめるからやつてみないか、と近所の方と先生にさそわれたのがきっかけでこうひつ教室に通うことにしました。

一年生の冬休みのしゅくだいでこうひつの書初めをした時、けつこううまく書くことができたと思い、こうひつは楽しいなと思いました。教室で字の書き方をならいはじめると、気をつけなくてはならないことがたくさんあり、びっくりしました。

こうひつ教室はお寺で習っています。せいざをして、きれいなしせいで字を書かなければなりません。ゆっくりていねいに書くので、とてもしゅう中してつかれます。お手本をよこにおいて、線や点がどのいちにあるのか、よく見ながら書き、お手本と同じように書けるととてもうれしくなります。教室では同じ学年の友だちといっしょにれんしゅうしているので、よく書けた時は字を見せ合います。友だちが上手に書いた字を見て、ぼくももつとがんばろうと思います。先生は、ていねいに書き方を教えてくれ、たくさんほめてくれるので、とても楽しいです。

ぼくは空手もならっています。「こうひつも空手と同じように級をとつて上がっていくんだよ」と、先生に教えてもらいました。空手で級が上がるとてももうれしくなります。こうひつはまだはじめたばかりですが、一生けんめいにたくさんれんしゅうして、早く上の級になれるようにがんばります。



上手に書けた時は友だちと見せ合っています

東京都葛飾区立住吉小学校二年 上田 朔久



硬筆は左手、毛筆は右手で書いています

東京都葛飾区立高砂小学校六年 赤川 茅



私は小学校三年生の時に、母にすすめられて書道教室に通い始めました。自分ではあまり意識していかなかったけれど、母から「ていねいに字を書くことができるのが、うらやましい。」と言われたことや、「書道教室に通えば、もっともっと上手な字を書くことができるよ。」と言われたことがきっかけです。

書道教室では、字の成り立ちから教えてもらい、一文字ひともじの形を理解して、考え、納得しながら書くよう心がけています。
私は左利きなので、硬筆の課題は左手で書きます。六年生になると、用紙からマス目がなくなり、行書きが始まりました。マス目があるのとないのとでは、感覚が全く違います。文字と文字の間のバランスをとることがとても難しくて苦労していますが、今年初めて出品した高円宮杯で、日本武道館賞をいただきました。とても嬉しく、今後の大きな励みになりました。

毛筆は右手で練習しています。初めは右手にうまく力が入らず、思うようには書けませんでした。何度も何度も練習して、右手で筆を動かすことに段々慣れきました。

一つひとつ細かい筆の動かし方は、まだまだ練習することが多くあります。右利きの人に負けないように、これからも練習して、自分の納得いく作品が書けるよう、練習に励みます。